

# 令和4年度「学校を核とした地域力強化プラン」

地域学校協働本部事業 地域未来塾事業  
地域家庭教育支援事業

## 実践事例集



彦根市教育委員会

# 目 次

1	彦根市の事業概要と経緯・取組について	1	
2	各校の地域学校協働本部事業の取組		
	東中学校	子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして	7
	城東小学校	「城東ちょことボランティア」さんとともに創る豊かな城東っ子の学び	8
	佐和山小学校	「佐和山応援隊」 地域・保護者の方々とともに	9
	旭森小学校	「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～	10
	西中学校	地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」	11
	城西小学校	児童の豊かな学びを地域とともに創造する	12
	城北小学校	地域に学び、人、もの、ことへの愛着心を育てる『城北たんけん～このまち大好き～』	13
	中央中学校	地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT	14
	平田小学校	豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり	15
	金城小学校	地域のでつくる子ども達の豊かな学習活動	16
	南中学校	彦根南サポートオフィス 12年目の取組 ～継続は力～	17
	城南小学校	つながりが生み出す豊かな学び	18
	城陽小学校	つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～	19
	亀山小学校	ふるさとを愛しふるさとに学ぶ「We Love かめやま」	20
	彦根中学校	未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動	21
	河瀬小学校	見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」	22
	高宮小学校	地域力を学校に、学校力を地域力に	23
	鳥居本中学校	地域と学校を結び鳥居本学園の協働活動	24
	鳥居本小学校	「ふるさとと共に生きる喜びを」 地域とつながる体験活動の支援	25
	稲枝中学校	地域のバックアップが見える支援活動	26
	稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動	27
	稲枝西小学校	「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして	28
	稲枝北小学校	ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成	29
	若葉小学校	「子どもたちの笑顔のために」 チームわかバンク7年目の取組	30
3	各校の地域未来塾事業の取組		
	東中学校	あたたかい地域の大人との関係の中で、安心して学習に取り組める場づくり	31
	城東小学校	個に応じた支援で、やる気アップ！学力アップ！	31
	佐和山小学校	個に応じた学習支援～わかる楽しさを感じて楽しく学ぶ場づくりを～	32
	西中学校	「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！未来塾	32
	城西小学校	基礎・基本の定着をねらいとした学習支援	33

城北小学校	夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～	33
中央中学校	来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」	34
	子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり	34
南中学校	放課後学習「水曜ゼミ」	35
城南小学校	「わかった」「できた」子供の笑顔のために	35
亀山小学校	夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～	36
彦根中学校	学びを育む学習会	36
河瀬小学校	5年生 算数科学習支援教室	37
高宮小学校	地域と共に育てる子どもの学ぶ力	37
鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾	38
鳥居本小学校	輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして	38
稲枝中学校	生徒の自主性を尊重し、リラックスして学習に取り組める場	39
稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」	39
稲枝西小学校	わくわく はえみ学習	40
稲枝北小学校	基礎的・基本的な学力の定着を目指して～「できる・分かる」喜びを	40

#### 4 地域家庭教育支援事業の取組

佐和山小学校	学校・家庭・支援員の連携の真ん中に子供をおいて	41
旭森小学校	家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業	42
金城小学校・平田小学校	家庭と学校をつなぐ～すべては子どもの笑顔のために	43
	彦根市における家庭教育支援の取組	44

#### 5 資料

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱	45
令和4年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿	47
令和4年度彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿	48

**彦根市の事業概要と経緯・取組について**  
**(地域学校協働本部事業・地域未来塾事業・地域家庭教育支援事業)**

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

**□事業の概要**

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・地域未来塾では、小学生・中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、さまざまな要因により、学習習慣が身につけていない小・中学生への支援にもつなげる。
- ・7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。
- ・子育てに困り感や課題がある小学校児童の家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通して、保護者の悩みや不安を軽減するとともに、地域におけるつながりを作る支援、家庭教育や子育てについての助言や情報提供を行い、親子に関する問題の解決を目指す。  
（令和2年度から事業開始）

**□取組の経緯・取組**

- ① 平成20年度～平成22年度 3年間の文部科学省委託事業  
平成20年度 東、稲枝 市内2中学校区で事業が始まる。  
平成21年度 東、西、鳥居本、稲枝 市内4中学校区に拡大実施  

- ② 平成23年度から 市の事業（国・県・市 1/3 ずつ負担） 市内全7中学校区で実施  

- ③ 平成24年度
  - ・市内7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）
  - ・予算 4,734,000円（補助金3,156,000円）
  - ・実行委員会の開催（年3回）
    - 7月31日(火) 10:00～11:30 事業説明・実践交流
    - 11月29日(木) 14:00～16:00 研修会・実践交流
    - 3月1日(金) 14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
  - ・H24年度の取組重点
    - 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問11月 7中学校区訪問  

- ④ 平成25年度
  - ・市内7中学校区支援地域協議会  
（従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝）
  - ・予算 4,583,000円（補助金3,055,000円）
  - ・実行委員会の開催（年3回）
    - 構成委員：15名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
    - 8月2日(金) 14:00～15:30 事業説明・実践交流
    - 11月28日(木) 9:30～11:30 研修会・実践交流

- 3月4日(火) 9:30~11:30 実践報告・振り返り
- ・H25年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問 11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑤ 平成26年度

- ・市内7中学校区支援地域協議会  
(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000円(補助金 3,075,000円)
- ・実行委員会の開催(年3回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
8月4日(月) 14:00~15:50 事業説明・実践交流  
11月26日(水) 9:30~11:40 研修会・実践交流  
3月2日(月) 9:30~11:30 実践報告・振り返り
- ・H26年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問  
11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰  
被表彰団体:彦根市学校支援地域本部  
12月8日(月) 文部科学省東館3階講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)



⑥ 平成27年度

- ・市内7中学校区支援地域協議会  
(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
- ・予算 4,633,000円(補助金 3,075,000円→2,226,000円)
- ・実行委員会の開催(年3回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
8月4日(火) 9:30~11:30 事業説明・実践交流  
11月30日(月) 9:30~11:30 研修会(TKJ演習)・実践交流  
2月25日(木) 14:00~16:00 実践報告・振り返り
- ・H27年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問  
11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑦ 平成28年度

- ・市内7中学校区支援地域協議会(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)
- ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000円(補助金 3,088,000円)
- ・土曜学習支援事業予算 450,000円(補助金 300,000円)
- ・実行委員会の開催(年2回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
7月12日(火) 9:30~11:30 事業説明・実践交流  
2月9日(木) 9:30~11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・コーディネーター連絡会の開催 12月22日(木) 14:00~16:00
- ・H28年度の取組重点(継続)

地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施  
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。

・学校訪問

10月～11月 7中学校訪問

学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑧ 平成29年度

・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会

・地域学校協働本部事業予算 4,410,000円(補助金2,895,000円)

・地域未来塾事業予算 2,295,000円(補助金1,530,000円)

・実行委員会の開催(年2回)

構成委員:18名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査)

7月14日(金) 9:30～11:30 事業説明・実践交流

1月29日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H29年度の取組重点

学校と地域の連携・協働活動の推進

(学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充)

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校訪問

地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

・コーディネーター研修会および連絡会の開催

12月22日(金) 14:00～16:00

講師 湖南省立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事

安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」



⑨ 平成30年度

・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会

・地域学校協働本部事業予算 4,464,000円(補助金2,976,000円)

・地域未来塾事業予算 2,351,000円(補助金1,567,000円)

・実行委員会の開催(年2回)

構成委員:18名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)

7月13日(金) 14:30～16:30 事業説明・実践交流

1月28日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H30年度の取組重点

地域学校協働活動と地域未来塾の推進

コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携強化とネットワークの拡充

・教頭研修会

7月9日(月)10:30～11:30 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に係る研修

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問

地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の

把握、今後の取組の確認

・コーディネーター連絡会の開催

12月21日(金)14:00～16:00 コミュニティ・スクールの実践報告と情報交流



⑩ 令和元年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 3,336,000円（補助金2,224,000円）
- ・地域未来塾事業予算 2,211,000円（補助金1,474,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）
  - 7月4日(木) 14:30～16:30 事業説明・実践交流
  - 1月27日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・令和元年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～12月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・コーディネーター研修会の開催
  - 12月19日(木)14:00～16:00
  - 滋賀県コミュニティ・スクールアドバイザー北辺禎雄氏
  - 「コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携・協働活動について」



#### ⑪ 令和2年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,645,000円（補助金1,763,000円）
- ・地域未来塾事業予算 1,956,000円（補助金1,304,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹）
  - 6月18日(木) 書面会議（事業説明資料を送付） 7月2日(木)まとめを送付
  - 1月26日(火) 14:00～16:00 WEB会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和2年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・県のモデル事業として「家庭教育支援事業」がスタート 湖南市と彦根市 佐和山小・旭森小学校の家庭教育支援地域協議会に委託
  - 家庭教育支援事業予算 518,000円（補助金345,000円）
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 8月5日(水) 14:00～
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月10日(水) 14:00～



#### ⑫ 令和3年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,456,000円（補助金1,637,000円）
- ・地域未来塾事業予算 2,482,000円（補助金1,655,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹）

- 6月11日(木) 書面会議(事業説明資料を送付) 6月22日(木)まとめを送付
- 2月上旬 書面会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和3年度 of 取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・家庭教育支援事業 旭森小・佐和山小に加え城東小学校にも拡充
  - 家庭教育支援事業予算 673,000円(補助金424,000円)
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 7月12日(月) 10:30～
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月21日(月) 10:00～



⑬ 令和4年度

- ・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,354,000円(補助金1,569,000円)
- ・地域未来塾事業予算 2,390,000円(補助金1,593,000円)
- ・実行委員会の開催(年2回)
  - 構成委員:19名+事務局(学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹)
  - 5月20日(金) 書面会議(事業説明資料を送付) 6月21日(火)会議のまとめを送付
  - 1月27日(金) 「Teams」によるWEB会議 14:00～
  - 研修動画の視聴 本年度の取組の交流
  - ブレイクアウトルームを活用したグループ交流と全体共有
- ・令和4年度 of 取組重点
  - 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、
  - ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を目指して～
- ・教頭会研修会 6月27日(月)
  - 「地域とともにある学校づくり ～ミライを見据え、今からできること」松田 幸夫氏
- ・学校訪問
  - 10月～11月 7中学校と若葉小学校に加え、
  - 学校運営協議会設置校・令和5年度「学校運営協議会」導入予定校
  - (城南小学校、稲枝東小学校、稲枝北小学校、亀山小学校、城西小学校、城北小学校)
  - 計14校の訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、「学校運営協議会」設置に向けた課題の共有
- ・コミュニティ・スクールの充実・促進を図るための研修会 2月22日(水)城西小学校
- ・家庭教育支援事業 旭森小・佐和山小に加え、金城小・平田小学校にも拡充
  - 家庭教育支援事業予算 486,000円(補助金324,000円)
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 7月19日(火) 10:30～
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月21日(火) 10:00～

# 彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

## ■本年度の具体的活動

実行委員会の開催（年2回）

第1回 5月20日（金）書面会議、事業資料配布 6月21日（火）書面結果の配布・交流

第2回 1月27日（金）各本部の実践交流・次年度に向けた協議  
学校訪問（10～11月） 市内15小・中学校

各支援地域協議会(委託先)およびコミュニティ・スクール導入校、次年度導入予定校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の推進状況把握と導入に向けた課題を共有し、助言を行った。



【手引き概要版】

## ■本年度の成果

学校運営協議会と地域学校協働本部のつながりを意識し、一体的な推進への理解が深まった。地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。

コミュニティ・スクールの理解や導入促進に向けて、教頭会研修会の実施、コミュニティ・スクールの手引きの改訂やパワーポイント資料や動画作成を行い、活用を呼び掛けることで、令和6年度での市内全小中学校導入に向けての機運が高まった。

社会教育委員の会議において、社会総がかりで子どもを育てるために、家庭教育の充実や企業との連携、コミュニティ・スクール導入に向けての議論を行った。

## ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

## ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進員は委嘱していないが、委嘱について検討している。

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度、新たに4校で学校運営協議会を設置し、本市の学校運営協議会は12協議会(13校)となる予定である。これまでの成果と課題をもとに導入を加速していきたい。

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

マスク着用、手指消毒、健康チェック、喚起を確実に実施している。

地域未来塾では、基本的な感染防止対策とともに、個別指導による密接を避けるための座席配置や子ども達と学習支援員の間への衝立設置など、各校の状況に応じた工夫をして実施に努めている。

コロナ禍で一旦中断した活動を、コロナ前の従来の活動に戻していくことが難しい活動がある。

## 子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして

<b>彦根市</b>	活動名： <b>東中学校区地域学校協働本部事業</b>	<b>東中学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園    □学校運営協議会    ■地域学校協働活動推進員等    □行政    □その他（    ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 昼休みの図書室開館・・・図書委員会とボランティアが協働して開館。
- ② 不登校生徒への支援（木曜ルーム）・・・地域力を生かした不登校生徒の支援。校内にあるリカレントルーム（別室授業）とは違い、時間の過ごし方を生徒が自ら考えて決定し、それをボランティアがサポートすることを中心にしている。教員でも家族でもない地域の大人との斜めの関係で子どもを元気づけることを目指す。



【 昼休み図書室開館 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ SNSを活用して、地域コーディネーターとボランティア、教員が情報共有。
  - ・ マスク・消毒・換気・密を避ける等の徹底
- ① ボランティア募集のチラシを、図書委員長・副委員長・教員と一緒に作成。月々のボランティアの当番表を、図書委員長・副委員長にも渡し、常に意識を持ってもらうようにはたらきかけている。ボランティアには、生徒（図書委員）をお客さんにしないような言葉がけを心がけてもらっている。
  - ② 保護者との連携を密にして、生徒が参加しやすいような場づくりを心掛けるとともに、生徒の来校を確実に把握して、他の生徒とのはちあわせを防ぎ、またボランティアの来校が空振りにならないようにしている。

■ 事業の成果

- ① ほぼ毎日昼休みの開館ができ、たくさんの生徒が利用することができた。図書委員が自分たちの仕事として自覚し、ボランティアへの感謝も強くなった。ボランティアの中にも「生徒をお客さんにしない」という意識が育っている。
- ② 学校に登校できず、長期欠席だった生徒が登校するようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日々忙しい業務のうえ、コロナ対策などでさらに多忙化している学校が、地域と何かをしようすると、さらに仕事が増えるため、なかなか新しいことに取り組もうという空気は生まれにくい。まずは学校の困りごとに目を向け、一緒に解決していくとこで、信頼関係を築き、次の一歩を踏み出すステップにしていきたい。

特に不登校への対策は、不登校が子どもから学力や社会性を身につける機会を奪うだけでなく、子どもの自尊感情を傷つけ、大きな社会問題になっている「引きこもり」につながる深刻な問題であるにも関わらず、人手が足りない学校にできることは限られている。この事業でこれまで培ってきたネットワークを生かし、地域の力を借りて、これまでとは少し違う方向の支援を学校の中で展開していきたいと考えている。教員と地域の住民が、「子どもの幸せ」を真ん中に協働する空気をつくっていきたい。



【 木曜ルーム うどん作り 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

特になし

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長    ■教頭    ■地域連携担当教職員  
 ■その他（担任・学年主任・担当教員（部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員    ）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

## 「城東ちょこっとボランティア」さんとともに創る豊かな城東っ子の学び

彦根市	活動名：東中学校地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：75人 ■学習支援（授業補助、学力補充等）    ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）    ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り                    □部活動支援                    □学校周辺環境整備                    □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）                    ■地域行事への参加                    ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習                    □その他 [                    ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園    □学校運営協議会    ■地域学校協働活動推進員等    □行政    □その他（                    ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

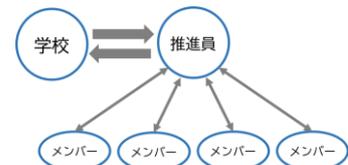
- 高学年家庭科でのミシンの学習サポート
- 校外学習（低学年の町探検、6年生の彦根城ボランティアガイド等）の引率サポート
- 5年生外来魚釣り引率・活動サポート
- 4年生「やまのこ」野外活動サポート
- 3年生リコーダー学習ゲストティーチャー
- 特別支援学級校外学習（さつまいも苗植え・いもほり）引率・活動サポート



【 2年生町探検引率サポート 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域学校協働活動推進員が、SNSでボランティア登録をしたメンバーのグループを作り、連絡ツールとして活用した。



■ 事業の成果

- 2年生町探検など、方面ごとに少人数に分かれて行う活動で、各グループのサポートについていただくなど、子ども一人一人の関心に応じた活動が展開できた。
- 3年生音楽科の学習で初めて出会うリコーダーについて、地域在住の専門家に出席授業をしていただくことで、リコーダーへの関心が高まり、学習への意欲につながった。
- 高学年のミシンの学習サポートでは、1テーブルに1人程度のサポートをしていただくことができた。特に初めてミシンの学習に取り組んだ5年生の児童にとっては、個別に丁寧に支援していただいたおかげで、基礎的・基本的な技能の習得につながった。
- 特別支援学級の活動では、子ども一人一人の特性をよく理解していただき、適切な関わりをしていただいたおかげで、どの子どもも満足感を感じられる活動となった。
- SNSを活用することで、学校⇄推進員⇄メンバーの連絡がスムーズに、かつ確実に行えた。学校からのお願いを転送する形で、推進員からメッセージを一斉配信してメンバーを募集するなど、効率よく、また、間違いなく連絡を取り合うことができた。



【 5年生ミシンの学習サポート 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域・学校ともに無理・無駄のない活動を

本事業のおかげで、子どもたち個々に応じた豊かな学習活動が展開できている。持続可能な活動にしていくため、今年度のように、無理なく・無駄なく、連絡・準備・実施していくことが重要である。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校長    ■教頭    ■地域連携担当教職員    ■その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 「佐和山応援隊」保護者・地域の方とともに

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：53人 ■学習支援（授業補助、学力補充等）      ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）      ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り      □部活動支援      □学校周辺環境整備      □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）      □地域行事への参加      □ボランティア・体験活動 □郷土学習      ■その他〔長期休業前の印刷物の作成〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園      学校運営協議会      地域学校協働活動推進員等      行政      その他（      ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本年度も地域コーディネーターの発信により、年度当初に支援内容に応じて『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方53名に登録いただき、学校行事等の様々な教育活動を支えていただいた。学校の様々な教育活動に協力していただく方々を『佐和山応援隊』としてまとめ、地域コーディネーターが取りまとめてくださる形がしっかりと定着している。多くの方々に協力をお願いできる体制が整った中で、コロナウィルス感染拡大に応じた協力内容の在り方を考えながら支援の在り方を考えることができた。

- 朝のさわやかタイムでの「ミニ英語タイム」【低学年】
- 校外学習の引率・見守り支援【3年生】
- 長期休業前の印刷物の印刷【全校】
- 図書ボランティア「ポケット」の図書室環境整備
- 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ【全校：金曜日】
- 体力テストの活動補助【全校】
- 運動会の保護者参観受付
- ハチマキの作製【6年生】
- 音楽学習発表会の会場消毒作業・入場児童の手指消毒補助【全校】



【夏季休業前の印刷物の印刷支援】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍での教育活動協力や支援は、その時々状況を見て依頼を判断するようにした。活動時には、応援隊の方も子どもたちも安心して支援をしたり受けたりできることを第1に考え、担当教員と地域コーディネーターがその都度支援内容を確認しながら実施した。また、音楽活動の支援については、直接の楽器演奏支援はしていただけない代わりに、音楽学習発表会で会場の消毒作業に当たっていただいたり、家庭科にかかわる支援として、子どもたちが運動会で使用するハチマキの作製をお願いしたりするなどして、間接的な支援を行うようにした。

■ 事業の成果

佐和山応援隊として、支援内容を予め確認していただいて募集しているので、必要な時に迷わずに支援依頼を出すことができ、大まかな人数把握もしやすかった。また、応援隊として数年目になる今年度は、毎年度同じような支援を同じ方がしてくださることもあり、依頼から活動実施への流れがスムーズになったように思われる。

前述のとおり、コロナ禍の現状を踏まえつつ、新たな協力をお願いすることができ、活動の幅が広がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

年度当初の応援隊募集や行事等の協力依頼については、文書での案内を行っているが、日にちが迫っての協力依頼や少人数の協力依頼時には、地域コーディネーターの個人携帯で連絡調整をしていただいている。本事業が応援隊として地域コーディネーターの方に取りまとめでいただくようになってからの課題であるが、連絡手段を個人に頼っている実情の改善が必要である。

『佐和山応援隊』としての活動が定着してきた今だからこそ、子どもたちのよりよい教育環境のために、教職員と地域・保護者が連携して教育に当たっているということを実感し、お互いに声を掛け合える関係性を大事にしていきたい。そして、担当する教員や地域コーディネーターが中心となって、充実した活動について定期的に話し合う機会をもつようにしたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長      教頭      地域連携担当教職員      その他（ 教務・学年主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名：東中学校地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印				
開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：68人				
■学習支援（授業補助、学力補充等）		■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）		■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り		□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加		■ボランティア・体験活動
■郷土学習		□その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。今年度新は型コロナウイルス感染症対策を踏まえながら、クラス単位での読み聞かせを復活させ、その様子を録画したものを、全校で共有した。生で伝わる読み聞かせのよさを子どもたちは身をもって感じるようになった。本の整理や季節に応じた掲示物の作成にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていただいている。

○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため今年度も「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「警察署出前授業」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」6年生の「職業体験談」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。今年度特に地域の歴史研究サークルさんとのつながりが生まれたことが大きい。地域の歴史を学ぶ心強い存在として、今後もつながりを持ち続けたい。子どもたちの学習を支えていただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。



【3年生 地域学習の様子】

○「旭森ボランティア」の活動

6月、保護者対象にコロナ禍における学校での子どもたちの安全管理と学校の教育活動を支える①徒競走大会 ②水泳授業の監視・消毒 ③マーチング指導 ④5・6年生の家庭科・裁縫学習 ⑤3年生の地域学習 ⑥音楽集会 ⑦6年生のゲストティーチャー（職業体験談） ⑧就学時健康診断（案内） についてのボランティアの募集を行った。10名の登録があり、コロナの感染状況に合わせながら、音楽集会時の楽器の消毒や就学時健康診断での案内役、マーチング指導等を行っていただいた。旭森小学校における新たな地域と学校の協働の大きな一歩となった。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーを講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。地域コーディネーターの方が事前に公民館に向かい、手紙や電話連絡をしたりしていただくことで連携がよりスムーズに図れたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者による密を避けながらの授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を行った。また各ご家庭からの参観人数も1名と制限を行った。保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。

参観が制限される中で、日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行えている評価も得ている。今後も定期的な更新を行っていききたい。

■ 事業の成果

○密を避けるための取り組みの中で、クラス単位の交流や分散参観の実施など新たな形態の協働の在り方が模索できた。

○コロナ禍で保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を是非広げていきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

○Teamsなどの活用でリモートを用いたゲストティーチャーや地域の方との連携の場を探っていく。

○小さな集団での協働や関わりのあり方のよさを今後も探り、活用していく。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）



## 児童の豊かな学びを地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 4年生 車いす体験 】

#### (2) 学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官だけでなく、子ども安全リーダーや学区の交通安全協会の方に来ていただき、通学路を想定したコース設定等により、交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。



【 6年生 湖東焼体験 】

#### (3) 地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りにお手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。返事をいただいた児童もあり、お手紙を通して交流することができた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全体的には、基本的な感染対策を学校（児童、教職員）、係わってくださる地域ボランティアがそれぞれに徹底していくことで、昨年度以上に体験的な活動や校外での学習を実施することができた。また、With コロナの考え方が進んだことも実施への追い風となった。一方で、読み聞かせでは、ボランティアに高齢の方もおられることから、児童とボランティアの距離を確保できるようにした。絵本が見えにくくなることもあり、大型絵本の使用や教室のモニターに絵本を映し出すなどの工夫をした。

### ■ 事業の成果

コロナ禍の中、児童と地域の関わりが薄くなっていったが、地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域学校協働活動推進員や地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、当該年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換できるようにしたい。

令和5年度に学校運営協議会を設置することから、地域学校協働活動推進員の役割をより明確にするとともに、運営協議会での議論を具現化できる多様な地域ボランティアを募集していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ： <https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

<b>彦根市</b>	活動名： <b>西中学校区地域学校協働本部</b>	<b>城北小学校</b>	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
  - ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動を参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
  - ・地域ボランティアや登下校の見守りの積極的な募集を行う等、人員の確保を行う。



【セーリング体験の様子】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学びを豊かにする学習支援

- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。  
 ※のぞみ「野菜を育てよう」、1年生「昔遊び」、3年生「クルーザー体験」、4年生「松原内湖の話の間こう」
- ・全校児童が参加する「ふるさと探訪オリエンタリング」を、地域の方々との協働による活動として3年ぶりに実施することができた。

○読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）

- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。

○学習環境の整備

- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。
- ・プールの掃除を、地域の方に協力いただいた。



【校地内の環境整備】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・今年度は創立130周年記念事業もあり、校地内の環境整備にご尽力いただいた。運動場の草刈りや植栽の選定、城北の森の大きかりな伐採等を実施いただき、整然とした美しい環境となった。そのことを子供たちや保護者に適宜発信し、感謝の心を育てている。
- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンタリング」は、地域の方々の協力を得、異学年による色別の班に分かれて、安全面等に留意して実施することができた。
- ・また地域の方を招聘した出前授業は、場所や時間、人数等を工夫して可能な限り実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、大型テレビに絵本を映し出したり、子供たち同士の距離をとって前方を向いて集まったりする等、挿絵の見せ方や読み方、集まり方などを工夫していただき、お話の世界に浸ることができた。

■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちももてるように努めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていききたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていききたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子は本校のホームページに掲載しています。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他(担任)

報告書記入者（ 教 頭 ）



## 豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：26人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

5月と9月に学年花壇や特別支援学級の花壇の土起こしや土づくり、畝づくりやマルチかけなど、花の栽培や野菜作りのための準備をしていただいた。学期初めで、教師にとって多忙な時期であるが、丁寧に整えてくださったおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの取組をスムーズに行うことができた。また、正門付近にある花壇では季節に合った植物を植えてくださり、子どもたちの心に季節感や彩を添えてくださった。

#### （2）本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校が長年続けてきた「全校ふれあい遠足」において、彦根城までの行程の安全指導のボランティアをしていただいた。地域学校協働本部登録メンバーと保護者に広くボランティアを募り、合計17名のお手伝いをいただいた。各たてわり班に1名から2名のボランティアさんに付き添っていただいた。交通量の多い交差点や観光客の集まる場所での安全確保をしっかり行うことができた。

#### （3）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動を育成するために、朝学習の時間を活用して国語の学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせ」の時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。



【全校ふれあい遠足】



【読み聞かせボランティア】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域学校協働本部事業登録メンバーから、「子どもたちと関わり共に楽しめる活動」という意見を受け、「全校ふれあい遠足」で一緒に歩いていただいたり、2学期末の

「学校クリーン作戦」で大掃除を一緒にしていただいたりした。感染予防の対策を講じながらではあるが、共に活動することで自然と会話が生まれ、笑顔で交流を楽しんでいただくことができた。

○本校では例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、地域学校協働本部事業登録メンバーに集まっていたが、1年間を見通した活動計画を立ててきた。しかし、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、今年度も紙面による総会に代えた。年間の活動計画等についてはコーディネーターと協議して立案し、昨年度登録のメンバーの方へ送付し、承認の返答を紙面でもらう形で総会とした。

### ■ 事業の成果

○学年花壇づくりでは、普段から畑仕事をされておられる方や、樹木に対する知識が豊富な方がボランティアとして活動してくださっている。栽培の方法や留意点、樹木の剪定の是非や適した時期など教員が詳しく知らないことを教えていただき大変勉強になった。

○下校時に気になった子どもの姿を教えてくださいなど、学校が把握していない事柄を伝えていただくことによって児童理解や生徒指導に生かすことができた。安全を見守るだけでなく、子ども達全体を見守ってくださる存在は、大変ありがたく感じている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○この数年来、地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化といった課題が続いている。毎月のように来校して作業をしてくださっている方々は、もう何年も本校をお支えいただいている方ばかりである。なかなか新規のメンバーが増えない。それどころか、近年は健康上の理由から退会を申し出られる次第である。新たな人材を発掘していくことが大きな課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもの様子やお知らせとともに学校ホームページで紹介している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教員）

## 地域のでつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：81人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動
  - ・金城見廻り隊の方々が、毎日の登下校の際に、通学路の要所に立ち、あいさつの声かけやコミュニケーションをとり、子ども達の安全を見守ってくださっている。
- (2) 体験活動への支援
  - ・3年生社会科「昔のくらし体験」、1年生「昔のあそびを楽しもう」の学習活動にゲストティーチャーを、4年生学校行事「荒神山活動」、5年生・6年生家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。
- (3) 朝読書の読み聞かせ
  - ・年間を通じて、毎週月・金曜日の朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。
- (4) 学習環境の整備
  - ・校舎周辺の樹木の剪定や教材園の補修等を実施していただいた。



【1年生「大型絵本の読み聞かせ」】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍における登下校については、マスク着用でのあいさつ声になり、届きにくくなるため、声とともに目線を合わせたり、ハンドシグナルを活用したり、また横断歩道を渡るときは手を挙げて渡ったりと見廻り隊の方々から率先して例を示し、コミュニケーションをとる様々な工夫を取り入れていただいた。一昨年前からの継続的な取組で、子ども達からのあいさつやサインも増えてきている。

来校いただいの学習活動や読み聞かせ等は、コロナ前の回数に近い状況にまで戻すことができている。3密対策や検温・消毒等を行い、実施してきた。新しい生活様式に合わせながら、継続していきたいと考える。

### ■ 事業の成果

- 通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。
- 地域の様々な人々によって、自分たちは守り育てられていることを、子ども達が感じ取ることができた。
- ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。



【3年生「昔のくらし体験」】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと
- 子ども達が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させていくこと
- ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること
- 再来年度実施のコミュニティ・スクール実施等について、どのように進めていくと有効になっていくか

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ： <https://www.fureai-cloud.jp/kinjyo-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 彦根南サポートオフィス12年目の取組 ～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）グリーンカーテンづくり（6～9月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで8年目。今年度も、地域のボランティアや生徒の手により、支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどに頑張り、何とかグリーンカーテンをつくり上げることができた。

#### （2）環境整備作業

1月に学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢50名程度で行った。また12月には卒業式を見据えて、特別支援学級生徒と協働してプランターの花植を行った。

#### （3）図書室環境整備

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。

#### （4）地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度もコロナ禍の影響を受け、中学生が地域に積極的に出かける活動は大部分を見合わせた。



【 地域の方と生徒による花植え】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを定期的に作成し、地域への啓発を行った。
- 校区の小学校の地域コーディネーターと担当の教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。
- 自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、ほとんどの事業で今年度は見合わせている。

### ■ 事業の成果

- ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、多くの親子での申し込みが比較的多かった。
- 毎年、地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。
- 中学校で、今年度新たに花植え作業を行った。地域の方の参加はまだまだ少ない状況であるが、今後定着化を図るとともに、地域の方にもっと参加いただけるよう周知を図っていきたい。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- 今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせた。今後は感染症対策を講じながら、どのように連携を進めていけばよいか、さらに協議を重ねていきたい。
- 学校運営協議会の設置に向けた取組について、関係者が熟議する場の設定や先進地の取組に学びながら、加速していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（社会福祉協議会）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本年度から、校区の社会福祉協議会の方とも連携を取り、学校ボランティアをしていただくこととなった。年度当初に、計画書を作成し協議することで、いつ頃どのようにご協力いただくか熟議することができた。その際には、例年ご協力いただいている他のボランティアの方との活動とかぶらないように気を付けた。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○徒競走発表会における学習支援

以前のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことはせず、今年も2グループの分散発表会で実施した。テント内で見学する児童の指導や運営など学年の教員だけではできない補助をボランティアの方にお願ひできた。

#### ○読書ボランティアによる読み語り

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。以前のようにボランティアの方の周囲に児童を集めて聞かせるのではなく、机の場所で聞くようにした。教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいただいた。

#### ○社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生や3年生の生活科や総合的な学習の時間に地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。見学場所で密にならず小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。



【 校区の校外学習の引率 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

ここ数年自粛していた活動も、上記のように実施の方法を工夫することで活動できるようにした。また、学校でコロナウイルス感染症が流行っているときは、活動を延期するなど、ボランティアの方の不安も減るよう柔軟に実施するようにした。

### ■ 事業の成果

- 徒競走発表会では、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、児童も日頃の成果を発揮することができた。
- 児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- 以前から人数確保が大変であった、「校区内の校外学習の引率」にご協力いただくことになり、毎回10名ほど来ていただけ、児童の安全面や活動時の密を防ぐ上でたいへん助かった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

本年度もコロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいていた本校では、特に感染が多い時期は、協力していただきにくい状況が生まれてしまった。中でも、長年続けている「幌踊り」体験が、計画していた時期に実施することができず、学習の流れとは大きく違う時期に実施することとなった。本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ICT等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）







## 見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市町	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：65人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 「大豆はかせになろう」（3年）

3年生では総合的な学習の時間に、国語科で学習した「すがたをかえる大豆」で学んだことから関連させて「大豆はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。6月末には、地域の方が育てておられる大豆畑を見学させていただき、11月には、大豆の収穫体験を行わせていただいた。また2学期には、大豆からできる醤油についての製造過程を教えていただく体験学習を行った。また今年度は、地域の方の協力を得て、3年生が収穫した大豆と5年生が収穫したお米を使って味噌づくりにも挑戦した。地域の方の中にこの取組に協力してくださる方がおられるので、充実した活動ができています。



【大豆収穫体験】

#### (2) 「町探検」（2, 3年）

今年も2年生の生活科、3年生の社会科で町探検に出かけていった。普段何気なく見たり、通ったりしている地域だが、この学習を機会に、これまで知らなかった河瀬の歴史や地域の良さについて学んでいる。2年生は、秋の町探検では「サニーリーフ」と「葛籠の黒大豆圃と豆つづら施設」に見学に行かせていただいた。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【町探検（サニーリーフ）】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○醤油の製造過程を教えていただく活動や味噌づくり体験は、家庭科室で行った。コロナ対策として、手洗いマスクの徹底、教室の換気、クラスごとの実施等、感染対策を十分に実施した。

○「町探検」では、2年生では地域の様子を知り、3年生ではさらに地域の方や地域の歴史や特徴を調べ知るなど、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。また2学年にわたって取り組むことで、より探究的に学びにつながった。

### ■ 事業の成果

#### 「大豆はかせになろう」

○学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。

#### 「町探検」

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。

○早め、お願ひしたい内容と日時をコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただけ、よりよい「連携・協働」に向けての準備ができる。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○コロナ禍の中なので、なかなか地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、学校行事の案内を届けることができていない。今後、状況を見ながら学校での子どもの様子を見ていただいているようにしていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 地域力を学校に 学校力を地域に

彦根市	活動名 : 地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度 : 平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数 : 2 人 (兼務 2 人) ボランティア登録数 : 80 人 ■学習支援 (授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ( )

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

#### (1) 「高宮駅コミュニティセンター」での作品展

地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。

#### (2) 読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日を設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

#### (3) 各学年の学習支援

郷土学習の充実に向けての学習支援を行っている。

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

#### 【読み聞かせ活動】

コロナ禍以前は、教室内の机を後ろに下げ、読み聞かせをしてくださる地域の方の所に集まって話を聞いていたが、現在は、自席で話を聞くなど十分な距離を取りながら活動を進めている。

#### 【高宮っ子たんけんたい】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。学習を通して、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。

#### 【栽培活動】

本年度は、春に向けて、「きれいな桜草を咲かせよう」というテーマを掲げ、栽培活動に取り組んだ。その際、植物について詳しい方に協力していただきながら活動を進めることができた。

### ■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。また、コロナ禍だからこそできる活動を通して、地域から学校への協力だけではなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかされた。コロナ禍であるがゆえの活動を見だし、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている。



【 高宮っ子たんけんたい 】



【 栽培活動 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者 (PTA 役員)、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。

### ■ その他 (学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会の立ち上げに向けた組織づくりを検討していく。

### ■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他 (学年主任)

報告書記入者 (地域連携担当教職員)



**「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる活動の支援**

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容等について共通理解した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○5・6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じることができた。



【 ミシンでソーイング 】

○読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8：15～8：30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいている、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 図書室環境整備 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウィルスの感染には十分配慮しつつ、子ども達の学習活動は可能な限り停滞させないことを念頭に置き、地域の方の支援もいただくこととした。ミシン支援では支援いただく方の配置や十分な手指消毒、確実なマスク着用等に留意いただいた。読み聞かせ活動では、子ども達が集まってお話を聞くのではなく、各自の座席に着席して密を避けるスタイルをとり、感染予防を図った。

■ 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行ってきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域のバックアップが見える支援活動

彦根市	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人 ボランティア登録数：74人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他〔地域運動部活動事務局〕			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（稲枝駅前環境美化活動）

- ・稲枝地区青少年育成協議会と稲枝地区公民館との共催で稲枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的に行い、稲枝駅利用者への心の安らぎを感じてもらうことができた。特に、今年度はプランターへの水やりボランティアに生徒が6人も手を挙げてくれ、美しい花で飾ることができた。



(2) 読書活動支援

- ・コロナ禍年度当初に、学校の先生・読み聞かせボランティアの代表の方・地域コーディネーターの連絡を、グループラインを有効に活用して年間の読み聞かせ計画・調整がスムーズにできた。隔週火曜日で月2日実施が基本であるが、学校行事等に合わせて実施できた。読みきかせボランティア同士の交流をおこない、よりよい読み聞かせを指向している。

(3) 部活動支援

- ・地域運動部活動推進事業の実践研究校として、2年目の活動を実施している。

(4) 運動場周辺樹木葉刈り

- ・運動場周辺の金網から出ている枝や、横に広がっている枝や葉っぱをチェーンソーで葉刈りをする。
- ・校庭にある全ての樹木に対して葉刈りができるとよい。年次計画を立てて実施すると良いと思われる。

(5) 特別支援学級への学習支援

- ・本年度は、天候にも恵まれほぼ計画通りに、野菜の栽培（学習）が実施できた。いろいろな野菜を収穫したとき、生徒は喜びと共に充実感を味わっていると思われる。



野菜の栽培学習

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍での活動となるので、三密を避け基本的な生活様式を守った上で、できる範囲内の活動を実施する。

- 事業の成果

- ・コロナ禍の中、様々な事業が制限されたり、中止の中でも、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったと思われる。
- ・活動中に、「将来農業をやろう」という生徒がいて、この活動も意義のあるものだと感じられた。
- ・収穫した作物を使ったカレーパーティーなどはできなかったが、屋外での焼き芋などを実施することができた。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域コーディネーター、ボランティア共に高齢化となっているので、支援活動を継続するには新しい人材発掘が重要である。

- その他（学校運営協議会との協働等）

- 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（特別支援学級担当教員）

報告書記入者（地域コーディネーター）

## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：56人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・コミュニティ・スクールの在り方・本校の学校運営方針についての説明
- ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 1・2年生 「親子で紙飛行機大会」(PTA ひびきあい親子活動)

1・2年生のPTA ひびきあい親子活動では、講師に紙飛行機名人の楠居様をお迎えし、2種類の紙飛行機の作り方を教えていただいた。最後には、親子でステージから作った紙飛行機を飛ばして、飛んだ距離を測定した。子どもたちは大喜びで、思い出に残る活動となった。稲枝地区公民館と青少年育成協議会の皆様には、会の進行、紙飛行機作りや記録測定のサポートなどをさせていただいて大変助かった。



【 親子で紙飛行機大会 】

#### (2) 4・5・6年生 「教育講演会」

本校卒業生でプロダンサーとしてご活躍中の赤田様とプロダンサー3名の皆様をお迎えし、4・5・6年生に「夢の見つけ方～届け！先輩からのメッセージ」と題してご講演いただいた。夢がまだ見つからない人には「好きなことを見つけること」、見つかった人には夢の叶え方をお話いただき、子ども達は、軽快な語りとプロダンサーとしての動きに魅了され、改めて『夢』を持って叶えていきたいと感じることができた。



【 教育講演会 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。
- ・活動実施にあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指消毒を徹底して行った。
- ・読み聞かせ時に、モニターを用いたり、Web会議ツールを利用したりすることにより、密集や密接を避ける対策を講じながらも、子どもたちと講師（地域人材）とがつながれるようにして活動を進めた。

### ■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能をもった人から学ぶことで、子どもの学ぶ意欲を高めることができる。
- ・地域の方と出会い、様々な体験をすることで、多様なものの見方や考え方に触れることができる。
- ・地域のために活躍する人や地域のよさに気づき、ふるさとを大切に思う子どもの育成につながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・教職員が積極的に地域人材を活用した学習を計画する。
- ・ボランティアとして活動して下さる方を確保していくことが重要である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの取組を進めるにあたり、地域や保護者の理解を得られるように、情報を発信していく必要がある。  
 ※ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。

(<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>)

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 教務主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市町	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協同本部	稲枝西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：(平成)20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域での行事活動が縮小されることが増え、地域の伝統行事などについて知らない子どもたちも多い。地域学習等でこれからも地域のよさを伝えていきたい。
- ・コロナ禍でマスクをしていることから表情が分かりにくいことも多いが、挨拶運動などの活動を通して、元気に挨拶できる子を増やしていきたい。



【 フラワーサポーター苗植え 】

### ■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

特色ある学校づくりとして、本校では毎年、地域の方と協力し学校の花壇作りに取り組んでいる。学校のメイン花壇だけでなく、サブ花壇、中庭、昇降口などは四季折々の花でいっぱいである。毎年、全校の子どもたちが花壇のデザインや、デザインに込めた願いを考えている。今年度は「美しいきずな」をテーマにしたデザインである。「花の栽培活動を通して、命の大切さや、思いやりの心を育みたい」という願いのもと、フラワー委員会や5、6年生の子どもたち、地域のフラワーサポーターの方々と共に活動に取り組んできた。苗の植え替えや除草、水遣りなど子どもたちと地域の方々と一緒に取り組むことができた。

また各学年の学習内容に応じて地域の方々から話を聞いたり、一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では、芋掘り・焼き芋体験をしたり、地域の商店や神社についての話を聞いたりした。中学年では、地域に伝わる絵や文化財について実物を見たり、説明を聞いたりした。高学年では、地域の歴史や湧き水(井)について学んだり、田植え体験、ニゴロブナの放流体験を行ったりした。

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

どの活動においても、マスクの着用、手指消毒、距離を空けることを徹底した。しかし、夏場や屋外での活動では、熱中症予防のため、距離を十分空けた上で、マスクを外すなど、その場の状況に応じて対応した。学習支援では、教室を2つに分けて少人数指導を行った。少人数に分けることで個別に支援する時間が確保できるとともに、距離を十分に空けることができ感染予防にもつながった。木工教室では、前半、後半の2グループに分けることで、人の密集を避けることができた。また一度に参加する人数が少なくなったことで、道具を使い回さずに活動することができた。



【 木工教室 】

### ■ 事業の成果

フラワーサポーターの方々と一緒に種まきや苗の植え替えをすることで自然と会話が生まれ、地域や学校での出来事について交流することができた。また、地域の方と一緒に花の世話をすることで、学校だけでなく地域みんなの花壇として大切に育てていこうとする意識が高まった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、昔の体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔の稲枝と比べることで、町の様子や遊び方など時代によって変化してきたものや、何十年も昔から変わらず大切にされている場所や行事などに気がつくことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や内容の確認など、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。年度当初に年間計画を確認し、早めに地域コーディネーターの方と話す場面を設定するなど、計画的に進めていきたい。

### ■ その他(学校運営協議会との協働等)

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

### ■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(担当教諭)

報告書記入者(地域連携担当職員)

## ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

<b>彦根市</b>	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：168人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・挨拶運動やスクールガード、学習支援等で地域の方と子どもたちが関わることでお互いに顔なじみとなり、挨拶がしっかりとできている子どもも多い。
- ・子どもの数が減ってきたことに加え、コロナ禍もあってか、地域で遊んでいる子を見かけることが少なくなってきた。
- ・学校で行っている地域との関わりのある学習は継続してもらいたい。



【へちまの棚づくり】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○栽培活動支援

昨年度より、年度初めの4月に、地域の方にお願ひし、栽培活動で使用する学年の畑の整備をしていただいている。今年度は、昨年度の大雪で崩れてしまった4年生の理科の学習で使用する栽培用の棚を作成して下さった。そのおかげで立派なへちまやひょうたんが多く収穫できた。

○稲村かるたオリエンテーリング

10月に全校で、「稲村かるたオリエンテーリング」を行った。創立百周年記念に作られた「稲村かるた」に掲載されている寺院や史跡を、ボランティアの方や保護者とともに訪れ、建物を見学したり、地域の方やお寺の住職から話を聞いたりして、豊かな歴史を肌で感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う心をさらに高めることができた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域連携担当教員を通して、ボランティアの方を探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、日程が重ならないように配慮した。
- ・感染症対策のため、検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。また、話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
- ・今までは、地域の青少年指導員や民生委員に声掛けをして参加していただいていた「稲村かるたオリエンテーリング」を、昨年度に引き続き今年度も、地域コーディネーターを中心に少人数で引率を実施した。また、清掃活動についても、まちづくり協議会の役員を中心に少人数で対応してもらった。

■ 事業の成果

○子どもたちの環境整備が整い、安心して過ごすことができる。

- ・地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちの「身近な地域の人に教えてもらった」という意識が働き、地域への愛着も深まった。「稲枝北小学校の子どもたちのために、地域の方々がいると支援をしてくださっていること」を、子どもたちに事前指導をすることで、子どもたちもこれらの取組を意識し、感謝の気持ちをもって地域の方に接している。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が進んでいるため、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。新しいボランティアの方の加入を積極的にすすめ、人材確保にあたっていきたいと考える。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

本校は、地域の方から様々な支援をいただいて教育活動を進めている。今年度から、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の制度は取り入れて運営にあたっている。「地域に開かれた教育活動」の理念のもと、より一層の地域との連携を深めながら、活動を行っていききたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク7年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ 土曜支援「教室」(第1, 3週の土曜日午前) ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について ・年間の活動内容について ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 「若葉の森」の環境整備活動

本校には、地域の方も「若葉の森」として親しみをもっている2000本を超える樹木が敷地内に植えられている。開校当時からこの「若葉の森」の木々を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等で樹に関わる学びを深めている。常設の支援（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加え、特設の環境整備部により敷地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。



【環境整備部による葉刈り】

② 命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいて進めてきた。今年度も新型コロナウイルス感染症予防を考慮して、地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能なかぎり3密を回避しながらの畝立て、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。



【プログラミング学習】

③ プログラミング学習を通じた高校生との交流

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り、防災教育の一環として6年生が防災かまどベンチ製作に取り組んできていたが、昨年度から新たに電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は、ウィズコロナの視点から、地域コーディネーターとの連携を大切し、感染症予防対策を講じながら制約された状況下においても、できることは実施していくという方向で進めてきた。ボランティアの皆さんは高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選しながら、図書支援（読み聞かせ・図書室整備）や学習支援（校外学習・ミシン実習補助）を行った。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーティションを設置して、感染予防を図っている。

■ 事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。  
 ○7年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（            教頭            ）

## あたたかい地域の人との関係の中で、安心して学習に取り組める場づくり

彦根市	活動名 : 水曜放課後学習会	彦根東中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：図書室 年間開催日数：28日（開催ペース：週・1日） 平均参加人数：11人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：4.5人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎・基本でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。生徒たちが地域の人とつながる場をつくる。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が主体的に決めたことをやり遂げられる支援を心がけている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。1学期は3年生の低学力の生徒を中心に、2学期からは、2・3年生の希望する生徒を受け入れ、生徒の自主性を尊重して運営。生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、学習の振り返りを記入する時間をとり、ボランティアとの交流に活用。コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底し、座席の取り方、換気などに配慮。



### ■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係はよく、生徒は積極的に質問しながら学習をすすめている。複雑な家庭環境の生徒が、ボランティアに悩みを打ち明けたり、他愛もないおしゃべりをしたりする中で、元気を取り戻す場にもなっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

実施時間に会議が重なるなど、多忙な教員に意識をもって関わってもらうことは難しく、「協働」の形の再検討が必要。

学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいように、担任をはじめ教職員と連携し、情報共有していきたい。

報告書記入者（地域コーディネーター）

## 個に応じた支援で、やる気アップ！学力アップ！

彦根市	活動名 : くろがねもち教室	城東小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：学校（各教室） 年間開催日数：3日（開催ペース：夏季休業中） 平均参加人数：25人/1日		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：4人/1日	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・3年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。
- ・夏季休業終盤の3日間、8：30～10：00に実施。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・1学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。
- ・各学年3人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導・支援を基本とする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・1学期末個別懇談会で保護者に案内する。
- ・友達同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

### ■ 事業の成果

- ・2学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、8：30開始としたことにより、生活リズムを整えるきっかけになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・下校時の見守り等への協力もいただければ、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。



【一人一人がめあてをもって取り組む】

報告書記入者（地域連携担当教員）

## 個に応じた学習支援 ～わかる楽しさを感じて楽しく学ぶ場づくりを～

彦根市	活動名 : さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 彦根市立佐和山小学校		開始年度: 令和3年度	
年間開催日数: 20日 (開催ペース: 月3~4日)		地域学校協働活動推進員等数: 2人 (兼務2人)	
平均参加人数: 13人		学習支援員等 平均人数: 6人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習にしんどさが見られる児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学校(担任や担当教員)と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで子どもたちが安心して聞ける関係づくりに努めた。少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組んでいる。また、終盤20分程度は、宿題に取り組む時間とし、今学習している内容についてもつまづき等の支援にあっている。



【学習指導の様子】

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

児童も学習支援員も、検温等で体調管理は当然のこと、教室への出入り時には必ず消毒を義務付けている。また、一人分の学習スペースを十分に確保するよう子どもたちにも声をかけている。

### ■ 事業の成果

昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを子ども自身が感じて前向きに学習に取り組んでいる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてより良い手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者(地域学校協働本部担当)

## 「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！ 未来塾

彦根市	活動名 : 学力補充教室	西中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 理科室・被服室		開始年度: 平成26年度	
年間開催日数: 30日 (開催ペース: 5月~2月 週1回)		地域学校協働活動推進員等数: 2人 (兼務0人)	
平均参加人数: 19		学習支援員等 平均人数: 8人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

### ■ 特徴的な学習支援内容

・元教職員の学習支援員を多く動員し、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。

・各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。

・夏季休業中は、各学年の学力補充教室と連携して実施した。

・コーディネーターを2人体制にして、2会場で学習会を実施し、蜜を避け集中して学習ができる対策を行った。検温と健康チェック、手指消毒を開始前に実施。



### ■ 事業の成果

・個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。・地域の方や大学生との交流が深まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。また、高齢の方を学習支援員に動員することで感染症による健康面について心配される。

### ■ その他・特別な支援を必要とする生徒への個別の学習支援を高めていく学習会の体制を検討する必要がある。

報告書記入者(教頭)

## 基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名 : 放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 各教室		開始年度: 平成24年度	
年間開催日数: 16日 (開催ペース: 週1日)		地域学校協働活動推進員等数: 2人 (兼務0人)	
平均参加人数: 15人		学習支援員等 平均人数: 3人	
・学習形態 : <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・算数科を中心に基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を4～6年生の希望者を対象に年間16回開催した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。

### ■ 事業の成果

- ・児童に個別に対応することができるため、その児童が持つ困り感に寄り添い、理解を深められることができた。



【 6年生のバックアップ教室 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。

報告書記入者 ( 教頭 )

## 夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名 : 夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 教室		開始年度: 平成26年度	
年間開催日数: 3日 (開催ペース: 年3日)		地域学校協働活動推進員等数: 1人	
平均参加人数: 60人		学習支援員等 平均人数: 4人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・実施日時: 夏季休業中の3日間、(7月21日(木)22日(金)25日(月))、いずれも8:30から10:00まで
- ・目的: 算数科を中心とした、個別の学力補充

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
- ・感染防止対策として、健康状態の確認、マスクの着用、入退室時の手指消毒、換気を行い、自教室の自席での学習とした。

### ■ 事業の成果

- ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スムーズステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。



【 個別指導の様子 】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 来てみる・やってみる 「土曜日曜教室・てみる」

<b>彦根市</b>	活動名： <b>土曜日曜教室・てみる</b>	中央中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：理科室 年間開催日数：10日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：8人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。2時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動に広がることも期待している。



【1対1を基本として実施】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するようにしている。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

<b>彦根市</b>	活動名： <b>学び育ちLL教室</b>	中央中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：中地区公民館 年間開催日数：44日（開催ペース：週1日、月4回） 平均参加人数：14人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：10人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。



【 LL教室の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中央中学校の土曜教室でみると同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設けて活動について発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では対面を避け隣の席から学習を見守れるようにしている。

■ 事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や特別支援の配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名 : 南中学校区地域学校協働本部 「水曜ゼミ」	南中学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 南中学校 年間開催日数: 12日 (開催ペース: 週1日) 平均参加人数: 15人		開始年度: (元号) 平成29年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 (兼務1人) 学習支援員等 平均人数: 3人
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

○放課後学習「水曜ゼミ」(11~2月)は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。基本週に1回のペースとしているが、今年度は昨年度同様12月に集中講座として4日間連続で開催した。  
○未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、今年度も実施していない。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

### ■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。また生徒用タブレット端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者 ( 教 頭 )

## 「わかった」「できた」子供の笑顔のために

彦根市	活動名 : がってん教室	城南小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 各教室 年間開催日数: 3日 平均参加人数: 100人		開始年度: 平成23年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 学習支援員等 平均人数: 3人
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

夏季休業中の午前3日間を設定し、1学期の学習内容を中心とした学力補充を行う。

### ■ 特徴的な学習支援内容

夏季休業中の課題や児童自身が付けたいと考える力にあった学習など、個々に選択できるようにする。また、学年によっては、演習を中心とする「どンドンコース」、参加児童同士で話し合ったり教え合ったりできる「じっくりコース」など、学び方を選ぶことができる。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

開催要項は全家庭に配布するとともに、目的や取り組み方等を担任より児童へ説明する。強制はしないが、1学期末の個別懇談会で、個別に参加を促すこともある。実施場所が密にならないようにした。

### ■ 事業の成果

学習に自信がもてなかったり、夏季休業中、どのように学習や課題を進めたらよいか不安に思ったりする児童の支援の場となった。小集団での学習や個別に質問ができる環境で、安心して学びに向かうことができたと思う。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加児童の実態や人数によっては、十分対応できない日もあった。支援員の増員の検討をしていく必要がある。



【 がってん教室での児童の様子 】

報告書記入者 ( 地域連携担当 主幹教諭 )

## 夏休み学習教室 ～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名：夏休み学習教室	彦根市立亀山小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：亀山小学校教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：80人		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：6人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

- ・夏季休業中の3日間（7月21日・22日・25日）、いずれも9：00から10：30まで実施した。
- ・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・基礎・基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応できるようにし、子どもが理解できるよう支援した。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・1学期末の個別懇談会の機会に、学習教室に参加させたい児童（基礎・基本の定着が十分でないと思われる児童）の保護者に趣旨や方法を説明し、理解を得るようにした。
- ・教室の消毒や換気、室内温度をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。

### ■ 事業の成果

- ・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・「基礎・基本の定着が十分でない児童に個別に指導する」という趣旨を保護者に理解していただき、昨年度より参加人数を絞ること、よりきめ細かな支援ができた。今後も同様の規模で学習教室を実施していきたい。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 学びを育む学習会

彦根市	活動名：彦根中地域未来塾	彦根中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：被覆室 年間開催日数：39日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：16人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：3人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、何を学習してよいのかわからない生徒も多数いる。そこで、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- \* 夏季休業中の補充学習および質問教室では、全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行っている。
- \* 3年生の放課後学習会では、10月から毎週火曜・木曜を基本にして、生徒が持参する学習教材や、基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が行っている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- \* マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。

### ■ 事業の成果

- \* 学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに、意欲的に取り組んでいた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- \* 学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

### ■ その他

- ・活動状況は、本校HPにて掲載している。<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>



報告書記入者（ 教頭 ）

## 5年生 算数科学習支援教室

彦根市町	活動名 : 5年生学習支援教室	河瀬小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 5年生教室		開始年度 : 平成23年度	
年間開催日数 : 15日 (開催ペース : 週5日)		地域学校協働活動推進員等数 : 2人	
平均参加人数 : 30人		学習支援員等 平均人数 : 1人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プリント等採点) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (休み時間) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・5年生算数科の学習支援を行い基礎学力の定着を図る。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・個別の学習支援 ・プリントを採点する。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・本校に教育実習に来た本校卒業生の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・5年生の学習進度に合わせて支援をしてもらった。2学期末は、既習学習の復習を中心に支援をしていただき、3学期は、面積の学習に特化してクラスごとに支援をしていただいた。



【 復習プリントをチェックしてもらう児童 】

### ■ 事業の成果

- ・従来は、休み時間を利用し担当が1人で復習や定着度合いを見取っていたが、  
人体制で指導することで短期間に効率的に指導することができた。
- ・児童も担任以外の先生に教えてもらえるということで、意欲的に取組み、定着を図ることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・本来ならば、夏休み学習補充教室を実施予定であったが、今年度もコロナ禍の影響で補充教室は中止となった。ただ昨年度実施した、2年生の九九マスター教室で子どもたちも意欲的に取り組めた姿があったので、今年度は、5年生の算数科の学習支援を計画し実施した。
- ・今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。

報告書記入者 (地域連携担当者)

## 地域と共に育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名 : 学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 令和3年度	
年間開催日数 : 2日 (夏季休業中)		地域学校協働活動推進員等数 : 2人 (兼務2人)	
平均参加人数 : 60人		学習支援員等 平均人数 : 4人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・基礎学力の定着及び学力のさらなる向上を図る。
- ・学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

### ■ 特徴的な学習支援内容

国語と算数を中心に補充学習を進める。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

コロナ禍のため、密を避け、前半後半の2つのグループ制にした。前半は、基本コースとし、授業の復習や夏休みの宿題に取り組んだ。後半の応用コースでは、ガッテンプリントなどの発展問題に取り組んだ。

### ■ 事業の成果

少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。また、学習支援員を地域住民から募ったことにより、地域未来塾だけでなく、ほかの学習にも協力をいただけるようになり、継続して子どもたちの学力支援をいただくことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の確保に努めていきたい。



【学力向上教室】

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

## 地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：10日（開催ペース：夏休み） 平均参加人数：4人		開始年度：(元号)平成24年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

### ■ 特徴的な学習支援内容

#### ○ 基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○参加者の募集については、学力の補充が必要な生徒を教員が選んでいる。

○実施にあたっては、マスクを着用し、密を避け、個別に指導をする。

### ■ 事業の成果

○生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。

○地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。

○学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが、課題である。

○平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保という面から、なかなか難しい。



【夏休み補充教室】

報告書記入者（ 地域連携担当 ）

## 輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして

彦根市	活動名：夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：鳥居本小各教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：25人		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の3日間（7月21日(木)、22日(金)、25日(月))、いずれも、8:30から10:20まで実施した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

個別指導が望ましいと判断した児童への、担任からの呼びかけにより参加を募った。会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大や熱基礎基本の熱中症発症の防止に努めた。

### ■ 事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さに目を向ける児童の姿も見られた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。



【夏休み国語算数教室】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 生徒の自主性を尊重し、リラックスして学習に取り組める場

彦根市	活動名 : 地域未来塾	稲枝中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 3年教室、図書室、大会議室		開始年度 : 平成28年度	
年間開催日数 : 28日 (開催ペース : 週1回・月4日)		地域学校協働活動推進員等数 : 2人	
平均参加人数 : 20人		学習支援員等平均人数 : 4人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (三者懇談会時) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・7月、夏休み、2月までの毎水曜日、保護者懇談会の期間に→3年生を対象に定期考査や高校入試に向けた学習支援

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・生徒の募集→3年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集  
3年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や受験対策を必要とする生徒に勧める。
- ・コロナ対策→当初の応募希望者が多く、普通教室を二部屋で実施したり、図書室や大会議室を利用して、密にならないように席を取って実施してきた。



【個別支援の様子】

### ■ 事業の成果

- ・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
- ・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・地域未来塾の講師の発掘が大変である。
- ・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。

報告書記入者 ( 地域コーディネーター )

## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名 : かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 音楽室		開始年度 : 平成30年度	
年間開催日数 : 15日 (開催ペース : 月3日)		地域学校協働活動推進員等数 : 6人 (兼務1人)	
平均参加人数 : 18人		学習支援員等平均人数 : 5人	
・学習形態 : <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・4・5年生の児童を対象に、6月より月に3回程度の学力補充の時間を計画した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・5月に年間を通して受講できる希望者を募った。さらに、担任より個別指導が望ましいと考える児童に参加を促した。
- ・児童がつまづきやすい学習内容 (概数、小数のわり算、割合など) を中心に、プリントを作成している。



【学習支援の様子】

### ■ 事業の成果

- ・算数科の基礎的な学習内容を復習することで、児童の学力向上につながっている。また、たくさん問題を解くことを通して、「できるようになった」と自信をもたせることができた。
- ・学習を通して、児童と地域の方が交流することができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・今後も取組を継続するにあたり、学習支援員さんの人材確保が心配である。
- ・教員が時間をかけて、学習教材を準備している点は課題である。

報告書記入者 ( 地域連携担当教員 )

## わくわく はえみ学習

彦根市	活動名 : ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 教室、図書室、音楽室		開始年度: (令和) 2 年度	
年間開催日数: 12 日 (開催ペース: 週・月 1 日)		地域学校協働活動推進員等数: 0 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数: 21 人		学習支援員等 平均人数: 4 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

・確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習

### ■ 特徴的な学習支援内容

・一つの学級を 2 グループに分け、各グループに 2 名の指導者を配置した。課題は、学習内容に合わせて難易度を分けて用意した。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

・下校時の安全面の配慮から、基本的に全員参加としている。1 クラス 10~13 名の人数で、十分に間隔を空けて学習できるようにしている。

### ■ 事業の成果

・普段の学習よりも子どもの人数は少なく、指導者の数は多いため困っている子どもに対して、十分に関わることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。



【 ホップタイム 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・指導して下さる方と学校、また担任との日程調整や内容確認を早めに行うことで、学習プリントの準備等、計画的に行う。

報告書記入者 ( 地域連携担当職員 )

## 基礎的・基本的な学力の定着を目指して ~「できる・分かる」喜びを~

彦根市	活動名 : ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 2 年教室・4 年教室		開始年度: 平成 27 年度	
年間開催日数: 50 日 (開催ペース: 週 2 日)		地域学校協働活動推進員等数: 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数: 5 人		学習支援員等 平均人数: 2 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導を実施することにより、基礎的・基本的な学力の定着を目指す。また、児童に「できる・分かる」喜びを味わわせる。

### ■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日 (1~3 年) 水曜日 (4~6 年)、学期ごとに参加児童を募集し定員を 8 名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題 (プリント等) を準備して実施したりし個別の進捗で学習を進める。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4~7 名という少人数で実施している。感染症対策として、常時換気・マスク着用・密にならないような座席配置に留意している。



【ぐんぐんクラブでの学習の様子】

### ■ 事業の成果

学習に苦手意識のある児童にとって、分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今年度、昨年度指導にあたっていただいた学習支援ボランティアの一人が、都合によりぐんぐんクラブの指導ができなくなった。地域学校協働活動推進員のご尽力で代わりの方を何とか探していただいた。学習支援ボランティアの確保も課題の一つになっている。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていける必要性を感じている。

報告書記入者 ( 教頭 )

## 学校・家庭・支援員の連携の真ん中に子供を置いて

彦根市	本事業開始年度	令和2年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容			A：家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数	( 2 ) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 2 ) か所
( 160 日 )			D：前項 (C) の配置場所名	佐和山小学校、

### ■ 活動の具体的内容

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

昨年度に引き続き、不登校傾向や別室登校児童の家庭を対象とし、家庭教育支援チームを設置している。家庭訪問や学習支援、登下校時の付き添い等、児童の様子や家庭の実態に合わせて保護者との連携を図りながら、個に応じた支援にあたっている。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

学期に1回、家庭教育連携担当教員と2名の家庭教育支援員で、連絡会議を行い、個々の児童の様子や支援の成果と今後の方向性について話し合っている。また、スーパーバイザーのSSWにもアドバイスをいただき、必要に応じて保護者との面談を設定してより良い支援につながるよう努めている。また、必要に応じて関係者で会議を行い、家庭への支援について検討している。

#### ○保護者に対する情報提供等

不登校傾向で、保護者と一緒に短時間登校している児童や月に数回放課後登校している児童について、家庭への働きかけや保護者支援が有効と思われる家庭について、担任を通じて家庭教育支援の活用を働きかけている。必要に応じて、担当教員からも保護者に家庭教育支援事業について伝えるようにしている。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

保護者と連携を取りながら、週に1回の訪問時間を決め、定期的に家庭訪問を実施するなかで、子どもや保護者との信頼関係を築いている。家庭に向向いてその時子供が興味を示すことを一緒にしたり、保護者と話をしたりして、学校と家庭を結ぶ大きな役割を担っている。

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○子供や家庭に寄り添った支援

兄が不登校傾向で学校への登校が難しい中、何とか登校できていた児童Aが、今年度に入ってほとんど登校できなくなり、学校からの働きかけにも難しさを感じるようになった。そこで、家庭教育支援について保護者に提案し、支援員と保護者の面談の後に定期的な家庭訪問を行うこととした。週1回の訪問で、少しずつ支援員にも慣れて、訪問時には児童の好きなことで一緒に遊ぶようになった。また、一度はウサギを見に行く目的で、授業時間内に学校(ウサギ小屋)まで支援員と歩いてくることができた日もあった。保護者にとっては、学校(教員)とのつながりに加えて、教員ではないが学校につながる立場の支援員との連携ができることで、児童について相談したり一緒に考えたりする場が増えたという安心感につながっている。また、支援員から家庭での児童の様子を聞くことができ、学校としての支援の在り方をより具体的に考えやすくなった。

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- 別室で過ごす子供たちへの支援については、手洗いや手指消毒はもちろん、学習・生活指導時、給食時には、パーテーションを活用している。
- 家庭訪問については、訪問前の体調管理や検温等を行い、体調によっては訪問を控えるなどして感染予防に努めた。

### ■ 事業の成果

- 児童や保護者との信頼関係を作ることができ、学校と家庭とをつなぐ役割も果たしている。訪問日や時間を決めておくことで、児童も保護者も安心して訪問を受け入れられている。

### ■ 事業実施上の課題

- 不登校児童についての理解が深い者が、支援員をしているため、学校や保護者との連携が強化できているものとする。また、時間的にも融通のつく支援員でないと、子どもや保護者へのかかわりが途切れがちになる。こういった地域人材の確保が難しい。
- 支援を継続するためにも、支援時間を増やしてつながりを深めたいが、時間の確保と調整が難しい。

報告書記入者 ( 家庭教育支援担当 )

## 家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業

彦根市	本事業実施開始年度 令和2年度
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>	
年間活動日数（のべ）	（ 90日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 2 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（旭森小学校）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

#### ○学習講座・行事の実施等

行事はコロナ感染対策を講じつつ実施した。行事の細かな参加の仕方等事前に保護者に詳しく説明し本人に無理のない範囲の行事の参加を促した。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を行い、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨や支援する家庭の絞り込みを行った。また、長期休みや学期の始まりにチーム会議を開催し、進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。日常的にも教育相談担当が窓口となり、週末に児童や家庭の様子を情報共有した。

#### ○保護者に対する情報提供等

ミニケース会議等を継続的にもち、家庭状況や保護者の状況を把握して対応した。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援を週1回程度定期的に行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登校したり、下校したりした。初めは保護者も児童も緊張気味だったが、家庭教育支援員といろいろな話をしながら活動すること安心につながり、感情の安定にもつながっている。



【定期的にケース会議を実施】

### ■ 特徴的な活動内容

○児童は家庭教育支援員と一緒に下校することで、体験不足の児童も四季を感じ楽しんで下校することができた。

○教員は、常に情報を共有し組織として行動を連携した。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○家庭教育支援員にケース会議に同席していただき、情報を共有することで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

### ■ 事業の成果

○保護者や児童との信頼関係が築けた頃より、児童の学校生活が落ち着きだし、保護者が学習用具に関心をもち、購入され、学校の教育に関心をもちたれるようになった。

○定期的な家庭訪問が保護者との信頼関係につながり良いときには、自ら子どもを送り出そうとする姿勢が見られるようになり、学校の教員とも積極的にはなそうとする様子が見られるようになった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話して下さるようになった。



【徒競走大会における児童支援】

### ■ 事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 家庭と学校をつなぐ～すべては子どもの笑顔のために～

彦根市	本事業開始年度 令和4年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（100日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 3 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	金城小学校（ベース校） 平田小学校（派遣校）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

地域の民生児童委員また通学路アドバイザーの方に、支援員としての依頼をし、事業内容について説明した。無理のない範囲で活動してもらうことにした。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

事業の中心となる県のSSWを中心に、支援員、学校管理職で、取組状況や成果と課題について話し合った。また、今後の活動内容についても話し合い、次年度入学予定の保育園や幼稚園、こども園に通う気になる家庭へもアプローチしていくような活動もしていく方向となった。

#### ○保護者に対する情報提供等

支援が必要と思われる家庭に対しては、担任や教育相談担当教員などから、事業と支援者についての話をし、理解を得て、実際に担任や担当教員と支援者宅を訪問したり、学校で対面する機会をもったりして支援員と顔合わせを行った。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

保護者および児童と支援員との顔合わせを行ったうえで、実際に曜日を決めて週に1回程度訪問し、朝の送り出しの支援を行った。最初は、支援員と学校教員またはSSWとの複数で訪宅し、慣れてきたら支援員のみで訪宅してもらうようにした。

### ■ 特徴的な活動内容

○朝の登校の際、スムーズに家を出られない児童の支援を行った。時には、玄関で母親からランドセルなど荷物を預かり、集合場所または学校まで一緒に行ってもらった。また、別の家庭については、保護者が早朝に出勤してしまうため、インターホンを押して登校を誘う声掛けをしてもらった。時には、学校で別室にいる児童に声をかけてもらうこともあった。

○SSWと支援員と学校で取組についての振り返り、今後の見通しなどについて話し合った。

特に、うまくいった内容、また困ったこと、今後の対応のことなど話し合うことで、支援員がより活動に見通しをもてるようにした。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○保護者と支援員の顔合わせについては、学校の担当者と支援員とが一緒に訪宅し、紹介し、どのように支援していくかなどについて知らせた。子どもとは、学校で顔合わせを行い、「また、お家に誘いに行くね。」などと話し、顔を覚えてもらった。

不登校児童については、訪宅し、保護者とともに顔合わせを行った。

○訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

### ■ 事業の成果

○児童や保護者と顔合わせを行うことで、学校など自宅以外の場所でもかかわりをもつことができた。また、保護者との信頼関係が強まり、母親のよき相談相手になっていることで、母親や児童の心の安定につながっている。

○学校が行っていたこと（朝の訪宅など）の一端を担ってもらえ、大変助かった。また、安心して依頼できる方なので、今後もお願いしていきたい。

### ■ 事業実施上の課題

○保護者のニーズと支援者の都合が合わなかったり、タイミングを計ったりすることが難しかった。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 彦根市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等を行うことで、親子に関する問題の解決を目指す。

### ■本年度の活動

- （１）家庭教育支援事業運営委員会の開催（市教委での開催）  
市教育委員会事務局、子育て支援部局、福祉部局、モデル校、  
県ＳＳＷ・ＳＶによる運営委員会の開催（年２回）
- （２）家庭教育支援チーム会議の開催（各小学校での開催）  
当該校の管理職、関係教員、ＳＳＷ、家庭教育支援員、市事業担当者
- （３）家庭教育支援員の配置とアウトリーチ型支援の実施  
モデル校の家庭教育支援地域協議会に家庭教育支援員を配置し、訪問型の家庭教育支援を実施するとともに、同一中学校区内の全小学校で支援できる体制を構築。  
新規中学校区内の２小学校にも事業を拡充。



【 チーム会議の様子 】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・長期休業明けの児童の状況を注視し、必要な支援に努めた。
- ・家庭教育支援員は、マスクを着用し、訪問家庭の了解を得たうえで対面、相談業務にあたった。
- ・会議は、基本的な感染予防対策を徹底するとともに、市主催の会議はWEBを活用した。

### ■本年度の成果

- ・家庭教育支援員が、保護者の子育てを労い、悩みを聞くなどの関係性を築く中で、子ども理解が進み、親子関係が改善し不登校傾向が緩和した事例や、登校を渋っている児童の家庭に対して、家庭教育支援員が訪問することで一緒に登校できるようになった事例等がある。
- ・学校教育や福祉施策ではなく、家庭教育支援により、環境の改善を図り、子どもの課題改善につながっている。

### ■今後の課題

- ・地域として一貫性のある家庭教育支援を実施し、地域におけるつながりや地域力の向上を図るとともに、事業実施校の拡充を図りたい。
- ・家庭教育支援員を安定的に確保できる仕組みづくりが必要である。

報告書記入者（生涯学習課 職員）

## 彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱

### (名称)

第1条 この委員会は、彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

### (任務)

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関すること
- (2) 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関すること
- (3) 事業成果の報告に関すること
- (4) 事業の評価に関すること
- (5) その他必要と認められること

### (組織)

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから25名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、社会教育関係者（地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校運営協議会関係者）等をもって構成する。

### (役員)

第5条 実行委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

### (任期)

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の3月31日までとする。ただし、欠

員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 実行委員会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
- 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
- 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成31年(2019年)4月1日から施行する。

## 令和4年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿

順不同敬称略 ※勤務校変更

	氏名	役職	委嘱・任命	継・新
1	富永美砂穂	東中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
2	藤井 和磨	西中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
3	北村 直久	中央中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
4	木ノ内江以子	南中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
5	平塚 寿和子	彦根中学校区 地域コーディネーター	委嘱	新規
6	森 正治	鳥居本中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
7	北川 浩志	稲枝中学校区 地域コーディネーター	委嘱	継続
8	小林 朱実	若葉小学校 地域コーディネーター	委嘱	継続
9	柴田 雅美	NPO法人 Links 代表	委嘱	継続
10	磨谷絵美子	彦根市PTA連絡協議会 事務局長	委嘱	継続
11	三宅 草	東中学校 教頭	任命	新規
12	幸 美砂子	西中学校 校長（校長会）	任命	新規
13	松田 暁郎	中央中学校 教頭	任命	継続※
14	小磯 浩司	南中学校 教頭	任命	継続
15	永井慎太郎	彦根中学校 教頭	任命	継続
16	綾木 尚子	鳥居本中学校 教頭	任命	新規
17	西山久美子	稲枝中学校 教頭	任命	継続
18	北川 祐子	若葉小学校 教頭	任命	新規
19	磯崎 久和	城東小学校 校長（校長会）	任命	継続※
20	谷村 忠司	学校教育課 課長	任命	新規
21	小坂 英司	学校教育課 副主幹	任命	新規
22	小椋 朋子	生涯学習課 課長	任命	新規
23	林 宏	生涯学習課 主幹	任命	新規

令和4年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿

No.	氏名	所属・役職等	対象校
1	富永 美砂穂	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立東中学校
2	馬場 敬子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
3	角 寿賀子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
4	安河内美沙子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
5	橋野 賀代	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
6	岡崎 みか	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
7	林 尚子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
8	藤井 和磨	西中学校区 地域コーディネーター 西中学校運営協議会委員	彦根市立西中学校
9	宇野 富美代	西中学校区 地域コーディネーター	彦根市立西中学校
10	尾田 英昭	西中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城西小学校
11	青柳 久美子	西中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城西小学校
12	小山 茂隆	西中学校区 地域コーディネーター 城北小学校運営協議会委員	彦根市立城北小学校
13	北村 直久	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
14	柴田 雅美	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
15	小野 忠夫	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立平田小学校
16	西村 重晴	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立金城小学校
17	木ノ内江以子	南中学校区 地域コーディネーター 若葉小学校運営協議会委員	彦根市立南中学校
18	寺村 和代	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立南中学校
19	永井 嘉和	南中学校区 地域コーディネーター 城南小学校学校運営協議会委員	彦根市立城南小学校
20	西崎 文雄	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城陽小学校
21	岩野 幹夫	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立亀山小学校
22	平塚 寿和子	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
23	馬場 英一	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
24	澤田 勘一	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
25	米田 紀代子	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
26	森 正治	鳥居本中学校区 地域コーディネーター 鳥居本学園運営協議会会長	彦根市立鳥居本中学校
27	松浦 近子	鳥居本中学校区 地域コーディネーター 鳥居本学園運営協議会委員	彦根市立鳥居本小学校
28	小嶋 麻衣子	鳥居本中学校区 地域コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校
29	北川 浩志	稲枝中学校区 地域コーディネーター	彦根市立稲枝中学校
30	藤田 治夫	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝西小学校運営協議会会長	彦根市立稲枝中学校・稲枝西小学校
31	小西 喜雄	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝東小学校運営委員会委員	彦根市立稲枝東小学校
32	馬場 清行	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝西小学校運営協議会委員	彦根市立稲枝西小学校
33	川瀬 保雄	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝北小学校学校運営協議会委員	彦根市立稲枝北小学校
34	小林 朱実	若葉小学校 地域コーディネーター 若葉小学校運営協議会委員	彦根市立若葉小学校

(敬称略)

令和4年度  
「彦根市地域学校協働活動推進事業」  
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業  
地域家庭教育支援事業

**実践事例集**

発行 令和5年(2023年)3月  
彦根市教育委員会事務局生涯学習課  
TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190  
E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp